

# もみ殻灰で樹脂材

## エルアンドアールが製品化 環境配慮、高耐燃性を実現

【南大阪】エルアンドアール（大阪府和泉市、大迫勝徳社長、0725・40・3705）は、西宮合成（大阪府城東区）と連携して、もみ殻灰を50%以上混合したプラスチック材料を開発した。高い耐燃性を実現しており、建材分野での商品開発を予定。現在、産業廃棄物として処理されているもみ殻灰を減量していることから、環境配慮商品としてもPRしていく考えだ。今後は抗菌性などのテストを行い、更にも商品化へ着手する。

開発にあたっては、エルアンドアールが開発したプラスチック材料には用

途に応じてもみ殻灰を50%から80%まで含有させることに成功しており、異形押し出し成形や射出成形による建材部品の商品化を予定する。

商品化後は両社の販路を使って売り出す考えだ。エルアンドアールの大迫社長は、「3年後に自社の売り上げが現在の4億円から倍増するようになりたい」と意気込む。

原料のもみ殻灰は国内調達のほか、火力発電でもみ殻を燃焼させているタ

イなどからも調達する方針。エルアンドアールはシ

ステムキッチンなど住宅設備向けに、プラスチック部品、金属部品の2次

加工を手がける。08年7月期の売上高は約4億

円。